

【様式】

令和6年度 学校マネジメントシート

学校名(北星高等学校)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿		安心・安全な環境で、「自分ならではの学び」を支援する学校
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿) 【グラデュエーション・ポリシー】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夢や希望の実現に向けて、主体的に学び、チャレンジすることができる生徒 ・ 知・徳・体が調和し、国際社会や地域社会における様々な分野で活躍できる生徒 ・ 社会規範を身に付け、社会的・職業的に自立できる生徒 ・ お互いの人権を尊重し、多様な価値観を認め合える生徒
	ありたい教職員の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北星高校教職員としての自覚を持ち、教職員間での情報共有を図り、チームとして対応できる教職員 ・ 寄り添いや傾聴の姿勢を重視し、個々の生徒の成長を支援することができる教職員 ・ 教職員としての使命感や責任感を持ち、コンプライアンス意識の向上を図ることができる教職員

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p><生徒> 安心して学べる環境、学び直しなど個に応じた学習支援、心身の課題に応じた生活支援、自己実現に向けた活動支援</p> <p><保護者> 社会に出て自立できる力を身につけさせる支援</p> <p><地域> 生徒の公共心とマナーの育成による地域の安全安心、地域活性化への協力・貢献</p>	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p><家庭> 子どもの社会的自立ときめ細やかな支援、子どもの学習状況や本校の教育活動についての情報提供、安心して通わせられる学校環境</p> <p><中学校・高等学校> 多様な課題を抱えた生徒の学びのための連携、学びの場の提供</p> <p><地域> 地域行事や防災での学校施設の利用と生徒・教職員の協力</p> <p><関係機関> 生徒支援のための連携と情報共有</p>	<p><家庭> 本校の教育活動への理解と協力</p> <p><中学校・高等学校> 生徒の情報共有</p> <p><地域> 本校の教育活動に対する理解と支援</p> <p><関係機関> 生徒支援のための連携と情報共有、専門的知識の提供</p>

<p>(3) 前年度の学校関係者評価など</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、刷新したホームページを活用し、学校行事の様子や日常の教育活動の取組などの情報発信を積極的に行ってもらいたい。また、保護者や地域からの意見を受取る仕組みの充実をお願いしたい。 ・コロナ禍において実施を控えていた授業公開を再開し、一人一台端末を活用した新しいスタイルの授業の様子を、保護者や地域の関係者など多くの方が見学できる機会を設けてもらいたい。 ・学校で採用されている学習用端末はクロームブックであるが、将来にわたる継続的なパソコンの利用も念頭に置き、より広く普及している OS やアプリケーションの導入を検討してもらいたい。 ・生徒を褒めることは自己肯定感を高めることに繋がるので、日頃から生徒との対話に努め、積極的に生徒の行動を褒めることを意識した指導・支援を推進してもらいたい。
<p>(4) 現状と課題</p>	<p>教育活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着が必要な生徒、特別な支援や配慮を必要とする生徒等が多数在籍しており、多様なニーズに対応できる教育課程の編成が課題である。 ・ユニバーサルデザインを意識した授業改善の継続や生徒の興味・関心、意欲を引き出す授業づくり、ICT等を効果的に活用した個別最適な学びや協働的な学びの推進が必要である。 ・生徒のコミュニケーション力の向上や自己肯定感を育むため、防災教育を通して、自助・共助の必要性を理解することで、防災意識を高め、地域との連携を深める。 ・生徒の心身の発達課題、多様な背景などを教職員が十分に理解した上で、専門家や関係諸機関と連携して、生徒一人ひとりに対応した指導・支援が必要である。 ・働きながら学ぶ生徒が減少する中、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育成する必要がある。 ・集団生活の中で生徒が自らを律しつつ、他人と協調したり、他人を思いやったりする心を育てる必要がある。
	<p>学校運営等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「北星高校職員として働くこと」に対する教職員の満足度は高く、チームワークとコミュニケーションを大切にしている雰囲気がある。 ・業務分担の偏りと多忙感を解消し、教職員一人ひとりの能力を発揮することができる環境を整備する必要がある。 ・教職員・保護者・地域・関係諸機関との連携を強化し、「チーム北星」による生徒支援の体制づくりを進める必要がある。 ・生徒に社会参画の意識を育むため、学校、保護者、地域が連携した教育活動の機会を創出する必要がある。

3 中長期的な重点目標

<p>教育活動 【カリキュラム・ポリシー】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な生徒の教育的ニーズを踏まえ、生徒の自己肯定感を高めるとともに、生徒が「学ぶ喜び・楽しさ」を見だし、夢や希望の実現に向けて主体的に学ぶことができる学習環境を整備する。 ・生徒が学校における学習と自分の将来との関係に気付き、自分の意志と責任で主体的に進路を選択できるよう支援する。また、社会的・職業的自立に向けて必要となる能力や態度を育成する。 ・生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、教育活動全体を通じて人権尊重の意識を高め、いじめのない安心・安全な学校づくりを推進する。
<p>学校運営等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定時制・通信制が一体となった持続可能な学校運営とするため、情報共有のしくみと協力関係を構築する。 ・生徒の成長と自立を支援するため、教職員・保護者・地域・関係機関との連携を強化する。 ・教職に必要な素養や教育課題への対応力等の向上を図り、効果的な教育活動を継続的に行うことができるよう働き方の改善を推進する。

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単位制・通信制課程の特色を理解し、主体的に学ぶ意欲を持った生徒。 ・ 多様な価値観を認め合い、人との関わりを大切にし、共に高め合える生徒。 ・ 働きながら学ぶ意志を持ち、共生社会の発展に寄与できる生徒。 ・ 将来の目的意識を持ち、自分ならではの学びができる生徒。
---------------------------------	--

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
主体的な学びの推進	【教務】 ○ 個別最適な学びや協働的な学びを取り入れた授業・スクーリング・添削指導を実施する。 ○ 生徒による授業・スクーリング評価を実施する。 【活動指標】 ・ 年2回(5月、12月)実施 【成果指標】 ・ 授業・スクーリング評価で「内容に興味・関心が持てた」、「学力(知識や技能)の向上や自分の進歩を実感できた」について4.5ポイント以上	【教務】 ・各授業・スクーリングや、「基礎力診断テストの事前学習」で、ICTを活用した学習に取り組んだ。 ・5月、12月に生徒による授業・スクーリング評価を実施した。定時制では「内容への興味・関心」の項目で、5月4.32、12月4.37だった。「学習効果の実感」の項目では、5月4.30、12月4.39だった。通信制では、同様の項目で、5月4.35、4.30、12月4.48、4.48だった。いずれも目標の4.5ポイントには届かなかったが、5月に比べて12月には上昇がみられた。	◎
安心安全な学校づくり	【人権】 ○ あらゆる教育活動において人権教育を推進する。 ○ 講演会、総合的な探究の時間、LHR、学校行事などのさまざまな教育活動を通じて仲間づくりを推進する。 ○ 個別の人権問題や差別の現状について学ぶことで、人権の意義と重要性を理解し、自他の人権を尊重できる人権感覚を育む。	【人権】 ・教員向けの研修会を年3回行った。研修動画視聴、リーフレットを活用した研修、人権意識に関するセルフチェックで人権意識を高めた。	◎

<p>安心安全な 学校づくり</p>	<p>【人権】 <定時制> 【活動指標】 ・ 総合的な探究の時間に人権学習を実施する。(2回) 【成果指標】 ・ 「夢ノート」において「興味をもった内容や新たな気づきがあった」生徒 70%以上 <通信制> 【活動指標】 ・ LHRや総合的な探究の時間等に人権に関する学習を実施(複数回) 【成果指標】 ・ 人権LHRへの参加人数の増加</p>	<p>【人権】 <定時制> ・ 総合的な探究の時間では1回目「就職差別について考えよう」。今年より性別欄の対応が変更されるなど、今もなお統一応募用紙は、改善されつつあることを学習した。2回目「人権って何だろう？」の講演会を開催した。振り返りの満足度も参加生徒の80%以上が「満足できた」「学べる部分があった」と回答している。 <通信制> ・ 今年度の人権・LHRは外部講師を招き人権講演会を行った。参加人数は49人だった。人権講演会に参加できなかった生徒向けに google classroom でビデオ撮影した動画を配信した。 ・ 機関紙「北星通信」に人権についての記事「人権の広場」を教員が輪番で執筆した。 ・ 総合的な探究の時間では、障がい者、戦争、多様性について学習した。</p>	<p>◎</p>
	<p>【生徒指導】 ○ 社会規範を意識させ、いじめのない、「安心」して学校生活を送ることができる、「安全」な学校づくりを推進する。また、生徒一人ひとりが「命を守り、命を大切にする」意識を持つための啓発を行う。 <定時制> ・ あらゆる機会をとおして、社会規範を意識して高校生活を送るよう呼びかけ、安心安全な学校になるよう努める。問題行動の未然防止や早期対応をすることで生徒一人ひとりが安心・安全に学べる、いじめのない、環境を整える。 【活動指標】 ・ いじめに特化した学習・研修を実施する。 ・ 学校生活アンケートを実施する(年間3回) ・ 年間を通じた継続的な校内外の巡回を行う。 ・ 始業式、終業式、長期休暇前等の集会時の講話で命の大切さについてふれる。</p>	<p>【生徒指導】 <定時制> ・ 昨年に引き続き、いじめに特化した、生徒向けの学習を実施した。また社会規範等についても、集会等の機会を通じて呼びかけを行うとともに、ポスター等を掲示して呼びかけた。 ・ 総合的な探究の時間には、交通安全、薬物乱用防止、SNSの適正利用等について注意喚起を行い、命の大切さについて考えさせ、自分事としてとらえ、行動できる生徒が増えた。</p>	<p>◎</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究(学習)の時間において、5月「交通安全」教育、11月「薬物乱用防止」教育を実施する。 ・授業規律を徹底する。 <p><通信制></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒がいじめを許さない心や相手を思いやる心を身につけることができ、また、安心・安全に学校生活を送ることができるよう、学校環境を整える。 ・交通事故の加害者・被害者になることのないよう、交通安全教育を実施する。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活アンケートを実施する(年間3回)。 ・職員による、年間を通じた継続的な巡回を行う。 ・特別活動の時間や Google Classroom等を利用し、仲間づくり、いじめ防止、交通安全に関する学習をおこなう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとりで問題を抱え込まないよう、機会あるごとに、生徒・保護者に対して、相談機関の案内等のプリントの校内掲示や各家庭への郵送等で伝えた。 ・巡回指導等を強化し、問題行動の未然防止に努めた。 ・授業規律についても、指導が必要な生徒も見受けられたが、おおむね良好な状態が保たれている。 <p><通信制></p> <ul style="list-style-type: none"> ・始業式時に「いじめを許さない安心・安全な環境で学ぶ学校」をつくることについての講話をおこなった。 ・「道路交通法改正」、「ひとりで悩まず相談しよう」、「オンラインの居場所」、「仲間づくり講演会」など、状況に応じて GoogleClassroom や LHR など周知した。 ・喫煙に関する注意喚起動画を GoogleClassroom で配信し、巡回も適宜増やして生徒に喫煙防止を周知した。 ・「学校生活アンケート」や「いじめ相談アンケート」を活用し、即座に対応できる体制を整えた。 	
	<p>【進路指導】</p> <p><定通共通支援の促進></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 定時制、通信制合同での進路支援の促進および定時制進路行事への通信制生徒の参加を促す。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職選考委員会後の入社試験対策を定通合同で催す。 ・通信制卒年次生を中心に定時制キャリアデザインセミナー②への参加を募る。 <p><定時制></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ キャリアデザインセミナーおよび進路相談の充実を図る。 ・進路に関して興味関心が高まり、参加出席してよかったと思えるキャリアデザインセミナーを行う。 ・進路相談を通して、一人ひとりの進路プランを考え、サポートする。 	<p>【進路指導】</p> <p><定時制></p> <p>キャリアデザインセミナーを4回実施した。第2回目は、他部へも参加を促し通信制の生徒が参加した。第3回目は生徒参加型の講座もあり大変盛り上がった。振り返りの満足度は第1回目97%、第2回目96%、第3回目97%、第4回目96%であった。生徒たちが進路を見据えて前向きに参加したと共に内容が合致していたと言える。この結果を</p>	◎

	<p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な探究の時間」においてキャリアデザインセミナーを、年4回実施する。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りシート(「夢ノート」)において生徒の満足度 80%以上 <p><通信制></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 進路ガイダンスを中心にしたキャリア教育の充実に努める。 ○ ソーシャルスキルを意識した授業づくりとLHRの運営を推進する。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 進路ガイダンスを3回(5時間)実施する。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りシートのアンケートにおいて生徒の満足度 80%以上 	<p>もとに、より一層満足できるセミナーを目指し、次年度以降も企画していきたい。</p> <p><通信制></p> <p>学校行事にキャリア教育を位置づけたものが定着してきており、計3回実施した。振り返りの満足度も参加生徒の90%以上が「大変役立つ」「役立つ」と回答している。</p> <p><定通共通支援促進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・通信制の進路専任教員が配属され、より状況を把握しながら進めることができた。 ・生徒の希望を第1優先に、それぞれのペースに合わせて進路指導ができた。 ・進学指定校推薦者への説明会に保護者の同席も導入し確実な情報伝達ができた。 	
<p>社会的自立を促す支援</p>	<p>【保健】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 個に応じた指導・支援の充実に努める。 ・ 保健室から情報発信し、定時制各部・通信制・各分掌等と連携を図り、生徒一人ひとりを尊重し、個に応じた指導・支援を実践する。<定通共通> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーや教育相談員との情報共有を密にし、連携して生徒の指導・支援を行う。(教育相談)<定通共通> ・ 対象生徒の実態を把握し、チューター・生徒・保護者との面談を通して個別の教育支援計画を作成・活用する。(特別支援)<定通共通> ・ 集団に入ることが困難な生徒に対し、通常教室での学習に戻る力を育むために教員とのマンツーマンでの学習支援を実施する。(個別支援)<定通共通> 	<p>【保健】</p> <p>(教育相談)</p> <p>スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの情報共有を毎回実施し、助言を得ながらチューターとも連携して生徒への支援を行った。必要に応じて医療機関や関係機関に繋いだ。</p> <p>(特別支援)</p> <p>必要に応じて、チューター・生徒・保護者が発達支援員と面談を行い、個別の教育支援計画を6月中旬に作成をした。</p> <p>(個別支援)</p> <p>通信制システムを利用した個別の支援を実施した。 前期13名・後期14名</p>	<p>◎</p>
<p>改善課題</p>			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災教育を通じて自助・共助の理解を深め、地域との連携を強化しながら、生徒の自己肯定感やコミュニケーション力の向上を図る。 ・ 特別な支援が必要な生徒への対応として、コミュニケーション科目や通級指導などのカリキュラムを充実させる。 			

- ・ いじめ防止や SNS リテラシー向上に向け、効果的な指導を展開する。
- ・ 総合的な探究の時間や学校行事を活用し、キャリア教育を定着させるとともに、生徒の進路希望を第一に考えた個別支援を強化する。
- ・ 心身の発達課題を抱える生徒や多様な背景を持つ生徒への支援を拡充するため、専門機関や関係諸機関との連携を強化し、SC(スクールカウンセラー)や SSW(スクールソーシャルワーカー)との情報共有を継続する。あわせて、個別教育支援計画の適切な作成・運用を推進する。

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
「チーム北星」の協力体制の構築	<p><全般></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 校務に関する情報共有を通して分掌・部・課程間の連携協力関係を創出する。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各種委員会等の定期的な開催及び構成メンバーの見直し ・ 定通併修生徒の学習状況についての情報共有 ・ 「総合的な探究の時間」における地域人材の活用 <p><総務></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者・地域等への情報提供の充実を図るとともに地域連携を深める。 ・ 個々の閲覧者に対してわかりやすく、的確な情報発信を実現すべくホームページを随時更新し、最新の情報を発信する。 ・ 防災教育や合同避難訓練を通して地域との連携を図り、防災の啓発に寄与する。 <p><PT(学校マネジメントプロジェクト会議)></p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 職場の環境改善と職員研修の充実を図る。 ・ 教職員アンケートを実施し、意見をもとに改善を図る。 ・ 現職教育により、職員の研修を実施する。(年4回) ○ 職員間のコミュニケーションの充実 ・ グループ討議を実施する ・ 定時制・通信制の意見を集約し情報共有を行う <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート項目「教職員間にお互いに協力・連携する雰囲気がある」が70%以上 	<p><全般></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定時制、通信制教務部にそれぞれ併修担当者を置き、情報共有をしている。チューターが、生徒の状況に応じた学び方の一つとして併修の指導をしていけるように、他課程の理解を深めていけるようにすることが課題である。 <p><総務></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「わかりやすく、迅速に」を意識し、随時ホームページを更新することができた。 ・ 地域の方々と職員、生徒合同による防災の取り組みが高く評価され、「防災功労者内閣総理大臣表彰」「みえ防災大賞(大賞)」「ぼうさい甲子園(特別賞)」を受賞できた。 <p><PT></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 職員研修については各分掌が個別で企画し実施した。PT としては、「若者のメンタルヘルス」のテーマで定時制・通信制合同のグループワークを実施した。 ・ 教職員満足度調査での「教職員間互いに協力・連携する雰囲気がある」項目は満足度73%であった。(昨年度は69%) 	◎

<p>資質向上の 取り組み</p>	<p><全般> ○ 教職員一人ひとりが教育公務員としての自覚を持ち、県民の期待と信頼に応えていくためにコンプライアンス意識の向上に努める。 【活動指標】 ・ 全体でのコンプライアンス研修を2回実施する。 ・ グループ単位によるコンプライアンスミーティングを年2回実施する。</p>	<p><全般> ・ 全体でのコンプライアンス研修を2回実施した。加えて、グループ単位で2回以上のコンプライアンスミーティングに取り組んで、意識の向上を図った。</p>	
<p>資質向上の取 り組み</p>	<p><教務> ○ 授業・スクーリング公開及び職員による授業・スクーリング見学週間を実施する。 【活動指標】 ・ 年2回(5月、12月)実施 【成果指標】 ・ 生徒による授業・スクーリング評価ポイント平均4.5ポイント以上 ・ 生徒による授業・スクーリング評価ポイントが、1回目に比べて2回目に上昇 ○ 履修指導・受講指導に関する職員研修を実施する。 【活動指標】 ・ 年1回以上実施</p>	<p><教務> ・ 5月と12月に、授業・スクーリング公開を実施した。特に、12月7日(土)8日(日)の2日間で181人の来校者があり、昨年同時期より増加した。 ・ 併せて実施した校内の見学週間では、新規採用職員の研究授業を中心に、互いに授業を学び合う機会となった。 ・ 生徒による授業・スクーリング評価では、ポイント平均が5月は 4.37(定)、4.38(通)、12月は 4.44(定)、4.53(通)で、定時制は目標の4.5ポイントに届かなかったが、1回目に比べて2回目は上昇した。 ・ 履修相談・受講指導の開始に向けて、定通それぞれで職員向け説明会を実施した。</p>	◎
<p>職場環境改善</p>	<p><全般> ○ 職場の環境向上に努める。 【活動指標】 ・ 学校運営の効率化を図り、教職員が働きやすい環境づくりを推進するため、総務部等時間縮減の取組として、以下の4項目に取り組む。 ① 定時退校日を月2日以上設定し、達成率90%以上 ② 部活動休養日を週2日以上設定し、達成率100% ③ 1時間以内に終了する会議90%以上 ④ 学校閉校日を年5日以上設定(8月・12月) 【成果指標】 ① 時間外労働時間を平均月10時間/人以内 ② 月45時間を超える時間外労働者の延べ人数を0人 ③ 年360時間を超える時間外労働者の人数を0人 ④ 休暇取得日数を年間15日/人以上</p>	<p><全般> 【活動結果】12月末現在 ・ 定時退校日達成率 91% ・ 部活動休養日達成率 100% ・ スマート会議達成率 81% ・ 学校閉校日 年5日設定 【成果】1月末現在 ・ 平均時間外労働時間 定時制 6.1時間 通信制 6.2時間 ・ 月45時間超、年360時間超 月45時間超 のべ9人 年360時間超 2人 ・ 平均休暇取得日数 定時制 13.5日 通信制 12.0日</p>	◎

	<p><総務> ○ 生徒清掃時に行う職員のクリーンタイムをきっかけに、休憩室の清掃など、職員の使用する場所の美化はもちろんの事、日頃から校内における職員の美化意識の向上を図る。</p>	<p><総務> クリーンタイムを通して職員の美化意識を向上することができた。</p>	
改善課題			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 個々の教職員の能力を発揮できる環境を整備していく必要がある。 ・ 教職員・保護者・地域・関係機関と協力しあいながら、生徒の支援体制を強化していく必要がある。 ・ ホームページの迅速な更新を継続し、ICTを活用して生徒・保護者への連絡ならびに事務手続き等の円滑化を推進する必要がある。 ・ 業務効率化、労働時間削減、休暇取得の促進への取り組みを継続していく。 			

6 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災教育の取り組みを拡大し、地域との連携をさらに深めることで実践的な避難訓練の強化を図る。 ・ 通級指導の対象者増加に伴い、支援体制を整備し、継続的なフォローアップを行うことが重要である。 ・ 進路指導では、キャリアデザインセミナーの長期的な効果測定を行い、職場見学の充実を図ることで、就職ミスマッチの軽減を目指すべきである。 ・ 個別支援計画の拡充やコミュニケーション授業を全体に広げることで、生徒の安心・安全な環境づくりを推進すべきである。 ・ 教員の働きやすさ向上、地域・企業との連携強化、SNS の適切な活用についても継続的に検討する必要がある。
----------------------------	---

7 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<p>【防災教育の強化】 自助・共助の理解を深め、地域と連携しながら、生徒の自己肯定感やコミュニケーション力を向上させる。</p> <p>【特別支援教育の充実】 コミュニケーション科目や通級指導を強化し、支援が必要な生徒への対応を充実させる。</p> <p>【いじめ・SNS リテラシー対策】 効果的な指導を実施し、安全な学校環境を整える。</p> <p>【キャリア教育の推進】 総合的な探究の時間や学校行事を活用し、個別支援を強化して生徒の進路希望を尊重する。</p> <p>【多様な生徒への支援強化】 専門機関・関係諸機関との連携を深め、SC や SSW と情報共有を継続。個別教育支援計画の適切な作成・運用を推進する。</p>
<p>学校運営についての改善策</p>	<p>【職員の能力発揮環境の整備】 働きやすい環境を整え、個々の能力を最大限に活かす。</p> <p>【生徒支援体制の強化】 保護者・地域・関係機関と連携を深め、支援体制を強化する。</p> <p>【ICT の活用促進】 ホームページの迅速な更新や ICT の活用により、情報共有や事務手続きの円滑化を推進する。</p> <p>【業務効率化と働き方改革】 業務効率化、労働時間削減、休暇取得の促進に継続的に取り組む。</p>